



インターネットでの情報提供	
提供予定日	平成23年6月16日(木)

平成23年6月15日(水) 県政記者クラブ配布資料		
所属	担当者	電話
清流の国ぎふづくり推進課	清流の国づくり県民運動担当 課長補佐 樋田 幸浩	内線2695

「清流の国ぎふづくり県民大会」 を開催します！

昨年6月に開催した「第30回全国豊かな海づくり大会」では、多くの県民の皆さんが森と海をつなぐ清流の大切さを認識し、これを契機として、清流の保全への気運が高まってきました。

県では、この機運をさらに継続、発展させ、県民の皆さんのみならず、環境保全に取り組む団体の皆さん、他の行政機関とともに、「清流の国ぎふ」づくりとして清流を「守る」、「活かす」、「伝える」活動を推進していくため、「清流の国ぎふづくり県民大会」を下記のとおり開催します。

パネルディスカッションでは、「森・川・海の連携(つながり)を活かした清流の国ぎふづくり」をテーマに、東京都市大学教授の涌井雅之さんをコーディネーターに迎え、パネリストとして、オークヴィレッジ代表の稲本正さん、中津川市出身でフリーアナウンサーの草野満代さん、NPO法人森と水辺の技術研究会理事長の野村典博さん、岐阜経済大学教授の森誠一さんをお迎えし、それぞれの立場からご意見をいただきます。

また、この大会の中では、「ぎふ清流環境大賞、ぎふ清流環境賞」の表彰、「清流ミナモ」の発表、環境保全に取り組む団体の活動紹介・パネル展示も行います。

記

- 開催日時 平成23年7月18日(月・祝) 13:00~15:00
(清流の国ぎふパネル展は、10:00~15:00)
- 開催場所 長良川国際会議場 メインホール「さらさ〜ら」 ほか
(岐阜市長良福光2695-2 TEL:058-296-1200)

3. プログラム

(1) シンポジウム(13:00~15:00 メインホール「さらさ〜ら」)

- 開会あいさつ
- 「清流ミナモ」デザインの発表
ぎふ清流国体マスコットキャラクター・ミナモを活用してデザインした「清流ミナモ」の発表。
- 「ぎふ清流環境大賞、ぎふ清流環境賞」の表彰
清流を「守る」「活かす」「伝える」環境活動に取り組む団体の表彰
- パネルディスカッション
テーマ「森・川・海の連携(つながり)を活かした清流の国ぎふづくり」
コーディネーター:

わくいまさゆき
涌井雅之(東京都市大学環境情報学部教授、中部大学学術高等研究所)

パネリスト:

いなもと ただし
稲本 正(オークヴィレッジ代表)

くさのみつよ
草野満代(フリーアナウンサー)

のむらのひろ
野村典博((特非)森と水辺の技術研究会理事長)

もり せいいち
森 誠一(岐阜経済大学教授、越前大野市「イトヨの里」館長)

はた やすゆき
秦 康之(岐阜県環境生活部次長(環境担当))

- 清流の国ぎふづくり宣言

(2) 清流の国ぎふパネル展(10:00~15:00 市民ギャラリー)
(団体によるミニプレゼンテーションは、10:00~13:00)
清流を「守る」「活かす」「伝える」活動を行っているNPO、学校等団体の活動紹介

(3) その他

- 清流の国ぎふづくりワークショップ(10:00~12:00 大会議室)
県内から集まった児童・生徒などによる流域の取組み発表、情報交換など

4. 主 催：岐阜県、(財)自治総合センター
後 援：総務省

5. 参加方法

FAXまたはEメールにて7月8日(金)までにお申し込みください

FAX 058-278-2610 E-mail c11265@pref.gifu.lg.jp

* FAXの方は、参加申込書に必要事項を明記の上、送信してください

* Eメールの方は、必要事項[氏名/所属/住所/電話/Eメール]を明記の上、送信してください

※ 当大会は、カーボン・オフセットイベントとして、開催に伴いCO₂の排出削減に取り組むとともに、排出されたCO₂についてはJ-VERの購入を通じ相殺することとします。

■ カーボン・オフセット (carbon offset) とは

人間の経済活動や生活などを通して「ある場所」で排出されたCO₂などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などによって「他の場所」で直接的または間接的に埋め合わせようとする考え方や活動の総称です。

発生してしまった二酸化炭素の量を何らかの方法で相殺し、二酸化炭素の排出を実質ゼロに近づけようという発想に由来します。

「カーボン・オフセット」＝

「二酸化炭素(カーボンダイオキサイド: carbon dioxide)」 + 「相殺する(オフセット: offset)」

■ J-VER制度とは

カーボン・オフセットに用いるために発行されるクレジットの中で、国(環境省)が、国内で行われる温室効果ガス排出削減・吸収量のうち一定基準を満たすものを認証したものです。

このJ-VER制度が整備され、信頼性が確保されれば、J-VERが市場で自由に取引引きされるようになり、企業や個人、自治体などによるカーボン・オフセットの取組みが進むことが期待されています。